

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点
問一	ア すいしひょう	すいしのひょう もよい。 おんげんはくひ もよい。 こうしゅうかんしょくしかん もよい。	各 1 × 10
	イ さんじゅうじょうさつし		
	ウ おんげんはくひ		
	エ きゅうじゅうけん		
	オ こうしゅうかんしょくしかん		
	カ じゅんかかくじょう		
	キ あんきしょう		
	ク らっかん		
	ケ すじざれ		
コ そしゅひつ			
問二	ア 書の学習と文字を覚えるためにつくられた千字からなる韻文。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 2 × 5
	イ 筆跡をしき写しして籠字にとり、その中に墨をぬって同じ様な書跡を造る方法。		
	ウ 軸物などを高所に掛けるために用いる棒。		
	エ 印章の文字の配置法の一つで、人名を刻する印において、構図上重複を避けるために文字を上から下に順書せず、文を回らせること。		
オ 手本をよく観察して十分筆意を学んだ上、筆を下す時には一々それ等を見ないで書くこと。			
問三	① 検		各 2 × 5
	② 勅		
	③ 寿		
	④ 観		
	⑤ 高		
問四	ア 藝		各 2 × 8
	イ 閑		
	ウ 安		
	エ 和		
	オ 表		
	カ 康		
	キ 濠		
	ク 體		

46

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 【例】	採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問一	a 王羲之 b 虞世南 c 欧陽詢 d 褚遂良 e 孫過庭 f 玄宗 g 顔真卿 h 張旭 i 懷素	順序は問わない。        順序は問わない。	各 3 × 9
	問二	晋祠銘		3
	問三	書跡名 九成宮醴泉銘		各 3 × 2
		記号 ㊦		
	問四	漢・魏以来の名家の書や書論を品評し、書法の理想論を書いたもので、楷書、行書、草書の実用書体を基準として論評している。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	5
	問五	特徴 一点一画入念に書かれ、向勢の構えで重厚であり、蚕頭燕尾の特徴を持つ。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
		記号 ㊥		2
	問六	①→⑥→④→③→②→⑤		4
	三	問一	ア 七月六日	3
イ ふちはらのかねすけ			3	
ウ		文字 いつしかとまたくころをはきにあげてあまのかはらをけふやわたらむ	5	
		大意 早く会いたいと、はやる気持ちで着物の裾を脛までまくりあげ、一日早い、天の川を今日渡って会いに行こうか。	6	
問二		高野切第一種 筆圧の変化がたおやかで、ゆったりとした雰囲気を出している。連綿線の角度や強弱には繊細な変化が見られる。墨継ぎによる潤筆と渴筆の変化は、紙面に奥行きや立体感を与え、渴筆部分があたかも速く書かれているかのような印象を生み出している。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各 4 × 2
	高野切第二種 側筆を多用した、力強く構築性のある文字が特徴。運筆は、緩やかで沈着である。行の中心が通るよう、文字そのものは傾けず、連綿線を長く左下に伸ばしている。			
問三	ウ		3	
問四	平安時代には、唐の衰退や遣唐使の廃止などによって中国文化の影響が弱まり、文字にも日本の独自性が求められ、万葉仮名から草仮名へと発展し、11世紀の中頃には、古今和歌集を書写した「高野切」のような格調の高い仮名の名品が現れた。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	
問五	連綿線は、単なる字と字の接続線ではなく、それ自体が重要な書の美の要素であることを理解させ、運筆の律動性や筆脈の把握を通して、字と字を無理なく自然に続ける技法を習得させること。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)	採 点 上 の 注 意	配 点	
四	書の心がわかっていないものは、一点一画、すべて手本どおりになぞらえようとして、かえって拙い字にしてしまう。そのようなにしては、決して立派な書にならない。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10	
五	問一 日本及び中国の優れた書をいい、「漢字仮名交じりの書」に限定することなく、古典・古筆から近現代までの優れた書のこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	6	18
	問二 名筆を通して書の伝統と文化についての理解を深めるとともに、漢字仮名交じりの書の多様な表現に生かしていくこと。	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	12	
六	次の項目に関することがかかれていること。 ○「書への関心・意欲・態度」の観点別評価を行う項目。 ○「書表現の構想と工夫」の観点別評価を行う項目。 ○「創造的な書表現の技能」の観点別評価を行う項目。 ○「鑑賞の能力」の観点別評価を行う項目。		各 8 × 4	32